

第2回 阿賀野市総合計画審議会 議事概要

1 会議の概要

日 時：令和3年12月10日（金）午後2:00～3:30

場 所：阿賀野市役所 403 会議室

出席者：【委員】

大竹委員、佐久間委員、佐々木委員、武田委員、永松委員、丹羽委員、
山崎委員

【市】

菅原総務部長、山崎民生部長、阿部産業建設部長、相馬商工観光課長

事務局：企画財政課（大橋課長、古田島係長、鈴木主任）

2 議事

（1）答申（案）について

（2）阿賀野市国土強靱化地域計画【第2次改訂】について

（3）地方創生関係交付金事業について

3 発言の内容（主な意見等（○：委員、●：市））

（1）答申（案）について

→ 事務局より答申（案）について説明し、質疑なく承認された。

（2）阿賀野市国土強靱化地域計画【第2次改訂】について

○地籍調査（主に水原地区）は、いつ頃の完了を目標としているのか。

●水原地区は現在 26%程度であり、市役所周辺を中心に整備している状況である。

10 年程度で完了する目標を掲げているが、市街地はひと区画が細かいため整備の進捗が遅くなっているが、国土強靱化計画に掲げることで国の補助金をしっかり確保し、早期に整備していきたい。（産業建設部長）

○今回の計画改定は、国からの補助金を確保するためという認識で良いか。

●お見込みのとおりである。少しでも財源を確保し、事業を推進していきたいと考えている。（産業建設部長）

○10 月に和歌山県で水管橋が崩落した事故があったが、当市にも水管橋が何カ所かある。水管橋は陽にさらされており老朽化しやすいため、水管橋の点検・整備

もしっかり行っていただきたい。

- 導水管の整備について記載しているが、水管橋も導水管に含まれており、一体として整備していくこととしている。（産業建設部長）

（３）地方創生関係交付金事業について

【地場産業「安田瓦」を核とした交流人口拡大・就労促進事業】

○この事業によって就労者数等を増やしていくとのことだが、ヤキモノ体験によってどれだけ収益アップになるのか、実際に新築で瓦を上げる家がどれだけあるのか分からないが、こういった整備によって収益に繋がるのか。

- 安田瓦は当市唯一の地場産業であり、瓦製造業者だけでなく屋根施行業者も市内 27 事業所あり全国的に見ても多く、これらの産業を持続可能なものに必要がある。安田瓦協同組合も現在の状況に危機感を感じており、組合から市に対して改善案の提案があったことから、地方創生推進交付金を活用し改善に取り組むもの。この取組による効果については、すぐ出るものではないため少し長い目で見ていただきたい。（商工観光課長）

○何かをやっていないと結果は出てこないし、結果を恐れていては委縮してしまう。瓦の食器も色々なところで使われ始めているし、鬼瓦も人気がある。また、神社仏閣の立場からすると瓦産業が市内からなくなると将来の修復に影響がでるため大変困る。ぜひ地域で文化の担い手の育成をしていただきたい。

○道の駅にも安田瓦を使っているが、道の駅と連携し、安田瓦ロードまで人を呼び込むような仕組みを考えていただきたい。例えば、瓦のオブジェを道の駅やそこにできる公園などに設置して瓦に興味を持ってもらうなどできないか。

- 道の駅との連携や安田瓦ロードまでの誘導は必要なことであると認識しており、道の駅完成後は、市内の観光情報をすべて道の駅に集約し、発信していく予定である。道の駅への瓦オブジェ設置については、要望があれば検討したい。（商工観光課長）

○合併して 17 年経過した。瓦は安田地域の産業ではあるが、一地域のものではなく「阿賀野市の産業」という位置付けをしっかりとする時期にきているのではないか。例えば瓦のオブジェなどは安田以外の地域に設置してあっても良いはずだが、「安田の瓦」という意識のせいか安田地区に集中してしまっているのも、瓦が「阿賀野市の産業」という認識が薄いのだと思う。

○安田瓦ロードフェスティバル時は瓦のアートが道路などに並んでいるが、終わると撤去されてしまう。常設することは難しいのか。

●道路であるため常設することは難しいが、今回の瓦ロード整備では様々な瓦の焼き物を埋め込む他、オブジェも各所に設置し、散策する人が楽しんでもらえるようにする予定である。(商工観光課長)

○旅館業としても、観光先として瓦ロードをご案内することが多いが、現状ではどうしても飽きがきてしまうので、整備に期待する。また、先の委員の発言にあったように、小さいものではなく皆が見て分かるような瓦のオブジェが安田以外の地域にもあると良い。

●安田地区以外への瓦オブジェの設置については、設置できる場所があれば、今回の整備に伴い撤去したオブジェを活用するなど検討をしたい。(商工観光課長)

○市内には県外から人が集まる場所がいくつかある。そういった場所に瓦のオブジェを設置すると、それを見た人が次に瓦ロードを訪れるなどといった流れができるのではないかな。

●ご意見のとおり、観光地に設置することで効果が高められると考えるが、設置については今後検討していきたい。(商工観光課長)

○例えば、鶴ヶ城のように公共施設の瓦の葺き替え時に寄附を募り、瓦の裏面に寄付者の名前を入れるといった試みもあると良いのではないかな。

○今回の事業概要ではモノづくりがメインのようなのだが、最近の SNS では若者の「瓦割り」をよく見かける。モノづくりとは逆の発想だが、そういったものも集客の一手になるのではないかな。また、割った瓦を何かに再利用することができれば SDGs への取り組みも PR できるのではないかな。

●瓦割りについては、すでに丸三安田瓦工業が実施している。また、再生利用については、組合が再生工場を持っており、庭に敷き詰めるためのガラッコとして売り出すなど環境に配慮した取り組みを行っているところである。(商工観光課長)

○女性の視点からすると、モノづくりだけでなく魅力的な食べ物があった方が良いのではないかな。

●食に関しては瓦テラスにてすでに提供している。なお、今回の瓦ロード整備に関しては事業主体が民間（瓦協同組合）であり、民間感覚で推進していくものである。(商工観光課長)

○作成したイメージムービーをどこでプロモーションするのか。

●新しいイメージムービーについての具体的な話はまだ組合からの話はないが、現在のものはYouTubeで配信している。(商工観光課長)

○瓦ロードを整備したりイメージムービーを作ることは良いことだが、それを知ってもらわなければ意味がない。そういったところを市でサポートしてもらいたい。既存のムービーがあることを知らなかったし、YouTubeにアップするだけでなく、それを広げる取り組みが必要である。また、安田瓦が東京など県外でも活用されていることを市民も知らない。小さいことかもしれないが、そういったことも市民に周知していくと、安田瓦を誇らしく思うなど認識の変化に繋がるのではないかな。

●既存のムービーについても組合と相談し、流せるところでは流していきたい。(商工観光課長)

<その他>

【防災減災体制について】

○防災マップ(ハザードマップ)の作成は平成22年3月が最終である。10年ほど見直しがされていないが、防災減災の意識が低いのではないかな。5年に1度程度見直しをするべきである。また8月に大雨があり、笹神地区でも2カ所オーバーフローした。行政で「田んぼダム」の計画を作ってもらえれば下流域の農地を守ることができる。

●ハザードマップは国の基準に基づき作成しているため、国の基準が変わらなければハザードマップの改定は難しいのが現状である。(総務部長)

○国の基準ではなく、当市独自の基準を定めて作成してはどうか。また、避難所についても見直す必要があるのではないかな。

●避難所については近年見直しを行い、耐震基準を満たしている場所のみを避難所に指定したが、平時には避難所の場所に意識が向かないので、周知をしていくことは大事だと思っている。また、当市には洪水の危険性のある川がいくつかあり、破堤した場合は最寄りの避難所ではなく水原総合体育館など別の避難所に行くよう周知しているところである。(総務部長)

●洪水に関しては国の方でも、川だけでなく地域全体で対策をする「流域治水」に考え方が切り替わってきている。田んぼダムについては、農家の方に負担をかけることもあるため、随時情報発信をしていきたい。(産業建設部長)

【除排雪体制について】

○昨年度のような豪雪だと排雪が間に合わない。昨年度は業者の方にも市民から排

雪に関する問い合わせがあった。市民に対して排雪場所を周知した方が良いのではないか。

- 排雪に関しては業者を対象とした体制を組んでいるところである。排雪場所は昨年度より2カ所増やしたいと考えているが、軽トラックでは排雪に時間がかかることなどから一般の方を対象にすることは考えていない。(産業建設部長)